



ブラジル三菱東京UFJ銀行 DAILY MARKET REPORT

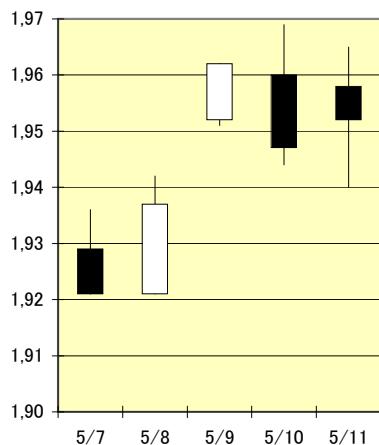
UFJ

1. Market Rate

			5月7日	5月8日	5月9日	5月10日	5月11日	Net Chg
Forex	USD/REAL	Spot	1,9210	1,9370	1,9620	1,9470	1,9520	+0,0050
	USD/YEN	Spot	79,89	79,88	79,63	79,91	79,92	+0,00
	EURO/USD	Spot	1,3055	1,3000	1,2933	1,2937	1,2923	-0,0014
	REAL/YEN	Spot	41,59	41,24	40,59	41,04	40,94	-0,10
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,70	1,60	1,50	1,47	1,54	+0,07
		1Year(p.a.)	2,12	1,99	1,92	1,88	1,96	+0,09
	Real Interest	6MTH(p.a.)	7,99	8,03	8,08	8,04	8,00	-0,04
		1Year(p.a.)	7,91	8,00	8,09	8,04	8,00	-0,04
Stock	Bovespa		61.220,43	60.365,48	59.786,12	59.702,05	59.445,21	-256,84
Bond	EMBI+(bp)		187,00	190,00	193,00	192,00	197,00	+5,00
	Global 40		132,700	132,700	132,600	132,500	132,250	-0,2500

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。

直近5営業日U\$/R\$推移



[来週の予想相場レンジ]

1.90～2.00

[来週の為替市場注目点]

今週のレアル相場は欧州の政局不安によって当初の想定であった1.95を下抜けてレアル安が進行した。政府要人のコメントからも政府・中銀がレアルの現状レベルを“居心地の良い水準”と捕らえていることが想像できる。但し、外部要因の影響を大きく受けた今週のレアル安はややスピードが速い印象があり、節目となる1U\$=R\$2,000が目前に迫っている。2.0000を超えるレアル安は将来のインフレリスクを拡大させることから、今後のレアル相場を占う上で政府・中銀のスタンスを確り確認する必要があろう。来週も引き続き欧州の信用不安の影響からレアルが弱含む展開を予想する。

- ・ 伯インフレ指数:IPC-S(16日)、IGP-10(17日)
伯週間貿易収支(14日)、FIPE週次消費者物価指数(17日)
伯小売売上高指数、広義小売売上高(17日)
- ・ 米消費者物価指数、NY連銀景況指数、小売売上(15日)
米証券投資収支、企業在庫(15日)、
米FOMC議事要旨、住宅着工件数、鉱工業生産(16日)、
米フィラデルフィア連銀景況指数、景気先行指数(17日)
- ・ 欧:ユーロ圏財務相会合(14日)、EU経済・財務相理事会(15日)

2. 市況、トピックス (As of mai-11)

【ギリシャ発の欧州債務危機懸念の再燃からレアルは売られ 2009年7月以来の水準まで下値を拡大する展開】

今週の為替相場はU\$1=R\$1.9290で寄り付いた。週末の6日にフランス大統領選挙及びギリシャ国民議会選挙が行われた。フランスでは現職のサルコジ氏が敗れ、ギリシャでは連立与党であった二大政党が過半数を割り込むなど何れも反緊縮財政派が躍進し、市場に欧州債務危機に対する懸念を再燃させる結果となった。同選挙結果を受けてマーケットは“リスク資産売り”で反応し、レアルも週初から売られる展開となった。ギリシャの新政権樹立を巡り政党間の調整が難航し政局不透明感が強まる中、レアルは下げ足を早め、週央にかけて心理的節目として意識されていた1.9500を下抜け下落した。その後もスペインの銀行が財政破綻の危機に陥っているとの噂や同国10年債利回りが持続不可能とされる6%を超えてきたことなどが材料視されユーロが更に下押しする展開にレアルも続落し、S/Lを巻き込みながら2009年7月振りとなる1.96台まで下値を拡大した。尚、9日のマーケット引け後の時間外取引でレアルは1.97台まで続落した。翌10日には政局不安が高まるギリシャに対して欧州金融ファシリティー(EFSF)が予定通り次回融資の一部支払いを完了したことや財政破綻懸念のあったスペインの銀行が国有化されたことなどから欧州の信用不安が一時的に後退し、市場センチメントの改善からレアルも6営業日振りに反発し、1.94台まで買い戻された。本日の為替相場はU\$1=R\$1.9580でオープン。オーバーナイト市場で発表された中国の4月鉱工業生産が2009年以来の低水準な伸びとなつたことを受けて中国の景気減速懸念が強まつたことに加えて、昨日に発表された米大手銀の巨額損失の報道も市場に影を落とし、レアルは売り優勢で始まり早々に本日のレアル安値となるU\$1=R\$1.9650を付けた。安値示現後はやや自立反発が見られる中、一部で大口のインフローの噂も聞かれ、徐々にレアルの買戻しが優勢となった。10:55に発表された米ミシガン消費者信頼感指数が4年振りの高水準となったことも市場センチメントを改善させ正午にかけてレアルは続伸し、本日のレアル高値となるU\$1=R\$1.9400まで上昇した。午後に入ると、ギリシャの新政権樹立がいよいよ難しくなり6月に再選挙が行われる公算が高まったとの報道がなされ欧州の政局不安が改めて意識されたほか、正午にかけてやや堅調推移となっていた株式市場が再び下落に転じたことなどからレアルは徐々に売り戻される展開となった。引けにかけて下げ幅を広げ、結局U\$1=R\$1.9520で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。なお、当資料の無断複製、複写、転送はご遠慮ください。当方の都合で、本レポートの全部または一部を予告なしに変更することがありますので、予めご了承ください。